

コラム『橋・モノがたり』5

都心部の2級河川ならではの人工が加えられつつ愛されている目黒川
～水質はイマイチだが一つ一つの橋に住民の思いが宿る～

撮影時、ちょうど近所の保育園の子どもたちが遊びにきていた《中の橋》。都心部ならではの河川の活用のされ方だ

渋谷川や目黒川など、都心部を流れる小河川はみな、神田上水や玉川上水のように、河川や湧水を水源としつつも江戸時代に人工的に開削された水路のような印象をもたれがちだ。しかし、渋谷川も目黒川も東京都が管轄する立派な2級河川である。

渋谷川は新宿御苑を水源とする隠田川が現在の渋谷駅スクランブル交差点付近で宇田川と合流した後、渋谷川に名称を変え、渋谷区と港区を通り、今も東京湾に注いでいる（港区の天現寺橋から東京湾までの河川の名称は古川）。目黒川は北沢川と烏山川が世田谷区と目黒区の区界で合流した後の名称。渋谷川は港区で古川に名称変更するが、目黒川は世田谷区・目黒区・品川区を通り、天王洲運河に流れ込むまで目黒川の名称を変えず、最終的に東京湾へ注ぐ。

ともされる。品川は高輪ゲートウェイ駅の設置理由・名称決定の理由にも挙げられているように、東京における21世紀のヒト・モノ・コトの新たな結節点としての期待が掛けられている。その土壌は江戸時代からすでに培われつつあったことが分かる。

さて渋谷駅付近から先の渋谷川の総延長が2・4kmなのに対し、目黒川は7・82kmある。そして渋谷川には42の橋が架かっているのに対し、目黒川には57の橋が架かっている。今回ご紹介する橋は目黒区内に架かっている目黒川の3つの橋だ。写真上の《中の橋》はピンクに塗装されたポップでかわいいうち橋で、ロケ地にもよく使われている。写真右ページの目黒新橋はJRR目黒駅に直結する幹線道路・目黒通りに架かる橋。右ページ写真下は、両者の間に架かる最もオーソドックスなタイプの朝日橋だ。それぞれに個性的なたたずまいを持つが、こうした市民の意向を踏まえてデザインされた橋は、都市部を流れる河川の魅力の一つを形成している。(T)